

## 生物多様性元年に向けて

真に豊かな環境共生都市長岡の創造

社団法人 長岡市緑地協会

理事長 鈴木重吉



最初に、日頃協会活動に  
対してご理解ご協力いた  
だいております多くの市  
民の皆様をはじめ関係団  
体、行政機関に対しまし  
て、改めて御礼申し上げ  
ます。

当協会もお陰様で設立十九年目を迎えるこ  
ととなり、より一層公益法人としての役割を  
フレキシブルに押し進め、さらなる飛躍を期  
し先の役員改選において体制も新たに船出い  
たしましたことを「報告申し上げます。

さて、地球規模で悪化の一途をたどる環境  
問題に歯止めをかけるべく、根本原理と云わ  
れる「生物多様性の維持」、すなわち地球上に  
住む多様な生き物の生息環境を守り、その  
恵みを将来にわたって有効に利用するため  
に生物多様性条約を確認し持続させること  
へのアクションを世界中で考え、目標の具現  
に努力しようという国際会議「COP10 あい  
ち・なごや」を日本政府が議長国を務め、本  
年十月十一日・月・祝（二十九日）金の間、  
名古屋市中で開催されます。

自然環境の再生……。このことは、当協会の  
定款第3条で謳っている「本会は、環境緑化活  
動を通して自然と人間が共生する真に豊か  
な環境共生都市長岡創造をめざすと共に、  
（中略）生物多様性の高い自然環境の再生を  
推進し……に各致しており、開催を契機に協  
会の活動も、より一層活発になること」に期  
待いただきたいと思っております。

具体的には、トキの分散飼育施設建設を

寺泊夏戸地域に進め、本年度内の完成を目指  
します。併せて、柿町地域において、トキの  
餌となるドジョウの養殖に着手いたします。

これらの活動を通じ、生物多様性に富む自然  
環境を再生させる事への理解と、環境教育  
の場づくり、地域コミュニティの醸成、さ  
らにはこれまで進めてまいりました「縄文  
ぶな街道ものがたり」をはじめとする多様  
な取り組みを、中山間地の景観保全につな  
げ、震災後一気に荒廃が進んだ里山や農耕  
地の再利用と、それによる地域経済の活性  
化を側面支援してまいります。

もちろん市街地の活性化のベースとなる住  
環境の整備に付きましても積極的に取り組  
んでまいります。地域経済の停滞により、  
せつかく今まで育ててきた緑地が経費の削  
減の波にさらされ厳しい状態であることも  
現実です。加えて、「街路樹は虫が付くし、  
葉が落ちて大変だ」、「緑地は雑草が生えて  
大変だ」というような自己中心的な苦情が  
寄せられているのが現状です。緑が私たち  
の日々の生活にどれほど大切なことか……。  
環境悪化の改善のためにも、緑を愛しむ心  
を育てて頂きたいと願うばかりです。一握  
りの「心無い、声だけ大きい市民」からの  
要望に惑わされては、後の祭りとなりかね  
ません、長岡の誇れるアメニティ空間を広  
げて行くために、多くの市民の皆さんと共  
に、声を大に「次代への責任として緑の大  
切さ」を訴えてゆかねばなりません。その  
ことが、長岡の文化水準の尺度になり地域  
の発展基盤となるからです。

多くの市民の努力によって、戦後の荒廃  
でみどりが少ない殺風景な市街地を、今日  
まで手塩にかけて育ててきた貴重な財産で  
す。COP10 開催年を契機に、これ等の問題  
を真摯に考えてみようではありませんか。  
今年もよろしくお願ひ申し上げます。

**開催期間** カルタヘナ議定書第5回締約国会議（COP/MOP5）：10月11日（月）～15日（金）  
生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）：10月18日（月）～29日（金）  
閣僚級会合：COPのうち 10月27日（水）～29日（金）  
**開催場所** 会場：名古屋国際会議場（名古屋市中熱田区）  
関連事業会場：白鳥会場、愛・地球博記念公園、栄地区  
**主催** 生物多様性条約事務局（カナダ・モントリオール）  
開催国（日本政府）は議長国として協力

「COP (Conference of the Parties)」とは、  
国際条約を結んだ国が集まる会議(締約国会議)のことです。



(社)長岡市緑地協会	役員
理事長	鈴木重吉
副理事長	関川淳
理事	山田富市
理事	平井邦彦
理事	吉野利夫
理事	青木勝
監事	吉田上治
監事	竹見正明

## 新米理事の思い

理事 青木 勝

山に暮らしていると、「緑化」ということには無  
頓着になりやすい。周りに緑に囲まれて、当たり  
前のように感じてしまつものだ。「緑化」とは緑の  
少ない街中の話だろうと思つていたら、今や緑に  
埋もれた山が危機的な状況になつていく。  
日本の7割を超える中山間地域の多くは戦後の  
植林政策の中で、杉・檜を育て、遠目には立派な  
森林が山を覆っている。しかし、一歩林に踏み入  
つたら身動きできないほど荒れ果てている。間伐  
もできず、枝打ちもしていない。人の手が入つて  
いないのだ。これでは、ちよつとの雨でも地すべ  
りを引き起こしてしまう。斜面に水の通り道さえ  
無いのだ。

自然界にもルールがある。一旦人が手を加えた  
自然環境には常に手を加え続けなければ、自然に  
帰ろうとする自然の摂理が災害を生む。「緑化」は  
単に都市の生活に緑の潤いを与えるというだけで  
はない。緑を守ることは自然と人間の共生を図る  
ことなのだ。そういう意味では、緑地協会の役割  
はますます大きくなるを得ない。エコといひ、  
地球温暖化といひ、我々を取り巻く自然環境は目  
に見えて悪化している。これら環境問題の先頭に  
緑を守り、人間の生活を守る協会の活動がある。

## 今、無くしてはならないものは

理事 吉野 利夫

昨年の政権交替で施策が変わり、建設関連業界  
には厳しい時代となり先行きが懸念されます。し  
かし国土の保全やインフラの整備、又それに伴つ  
技術の伝承も次世代に引き継ぐ大切な財産であ  
り、特に技術の伝承は一朝一夕で出来るものでは  
なく、経験を積み重ねる身体で覚え熟達をしてこそ  
成り立つもので、まさに鍛練千日、勝負一瞬なの  
です。

それにより事故防止や維持管理、又緊急有事に  
その技術力が発揮されるのです。技術力伝承の為  
事業の推進と底辺の拡大に努め、会員相互の連携  
を計り協会の益々の御発展を祈念いたします。